

〔篤峯文集二〕十二名姪說乙巳仲冬朔

法令謂之憲、四書六經所載皆是先王之法言、而聖賢之教令也、不可不守焉、古不云哉、發慮憲、憲敏也、目與心應之謂也、汝祖以之、又不云哉、博聞爲憲、汝考以之、予視汝猶子、汝視予猶父、汝視憲、憲猶兄、憲視汝猶弟、則名汝曰憲、猶邁過之於遠、朱鑑之於鉅、鉅乎、憲乎、吾期汝聿念其祖、無忝所生也、

〔文會雜記一下〕一春臺○太三平野字ニ名ヲ恒有ト付ラレタリ、獲麟解ニヨレリ、文章軌範ナドニ

ハ不常有トアリ、覺ソコナヒト君修モ思テ、韓文ヲ見ルニ恒有トアリ、初テ春臺ノ讀書精密ヲ知ルト君修語ケル、

〔將軍德川家禮典附錄三〕元文二丁巳年五月廿八日

一若君様○德川家治御名竹千代様と公方様○德川吉宗より被進候、公方様思召にも此度之儀御十分之

儀に思召候、權現様御名にも候得者、外之御名を可被進と被思召候得共、御代々御名之儀、達而被進候様にと、年寄共老中申上候に付、老中列座にて、出仕之面々へも、於席々左近將監申達之、

〔將軍德川家禮典附錄三〕元文五庚申年十二月十二日

一左之書付、大目付御目付江渡之來ル十五日、竹千代様御名被進候に付、爲御祝儀、翌十六日、鬘斗

目半袴著用、西丸江總出仕、夫より御本丸江可被罷出候、尤老中右京大夫能登守、并若年寄中江可被相廻候事、

但隱居幼少病氣之面々は、老中右京大夫能登守宅江以使者御祝儀可申上候事、

一在國在邑之五萬石以上之面々は使札、其外は可爲飛札事、

但在國在邑之隱居部屋住拾萬石以上は可爲使札、其外は可爲飛札候事、

一右に付、御祝儀獻上物には不及候、

一右に付、十五日月次御禮無之候間、不及出仕候、